

|    | 西暦  | 事件・ことがら                                                                                                                            | 西暦   | 事件・ことがら                                                                                                                   |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | (1) | 白石じゃ、 <b>非難</b> 多くて失敗じゃ<br><small>じゅがく あらい ほうせき</small><br>儒学者の新井白石の政治改革。                                                          | (6)  | <small>さだのぶ</small><br><b>定信</b> は、改革やりすぎ <b>非難</b> やな<br><small>でかせ</small><br>出稼ぎの禁止。米をたくわえさせる。                         |
|    | (2) | <small>きやうほう ひなん</small><br><b>享保</b> も <b>非難</b> いろいろ、でも吉とする<br><small>よしむね ねんぐ</small><br>徳川吉宗の改革。年貢の引き上げ。                       | (7)  | <small>さだのぶ</small><br><b>定信</b> の借金消えんれ、 <b>非難</b> わく<br><small>ちやうけ</small><br>旗本・御家人の借金を帳消しに。                          |
| 江戸 | (3) | <small>ゆうはん いな ふた あげまい</small><br><b>夕飯</b> が <b>稲つぶ二つ</b> は上米のせい<br><small>ひんこんしや ようじやうしよ まち ひ け</small><br>貧困者のための養生所。町火消し。新田開発。 | (8)  | <small>しゅし</small><br><b>学問</b> が <b>朱子学</b> だけとは、 <b>人泣く</b> おー<br><small>かんせい いがく きん</small><br>寛政異学の禁。                 |
|    | (4) | <small>くじがた</small><br><b>公事方</b> は、 <b>人</b> でなしには <b>厳しい</b> 掟<br><small>ひと きび おきて</small>                                       | (9)  | <b>幕府</b> には <b>嫌みな</b> 大塩平八郎<br><small>いや</small>                                                                        |
|    | (5) | <small>あさまやま</small><br><b>浅間山</b> 、 <b>天明</b> <b>人</b> の <b>悩み</b> なり<br><small>あさまやま ふんか</small><br>浅間山の噴火で百姓と町人の反乱が多発。          | (10) | <small>ただくに</small><br><b>忠邦</b> は、 <b>天保</b> の <b>仲間</b> と <b>酒飲み</b> <b>一夜</b> <b>よい</b><br><small>てんぼう さけの いちや</small> |

1680年、徳川家光の四男の(11…人名)が5代将軍になり、1687年に犬などの動物を極端に保護する(12…?令)を制定しています。人々の不満は強くなりましたが、このあとは世の人々の間に命を大切にする価値観が芽生えています。また、幕府の学問とされたのが儒学の一派の(13…?学)です。家康が(14…学者名)をとり立てたため、この人物の弟子たちが代々に朱子学の指導をしています。なぜ、朱子学を幕府の学問としたかを答えなさい。…(記述1)



庶民の子どもたちは、(15…漢字で)とよばれた教育機関で「読み・書き・そろばん」を習っていました。また、生活にゆとりが出てくると、町人たちがいろいろな娯楽を楽しむようになります。落語や(16…日本の国技)を楽しんだり、芝居小屋へ出かけたりしています。三重県の(17…?神宮)などの有名な寺社にお参りする旅もさかんになり、元旦の雑煮や節分・ひな祭り・彼岸・端午の節句のこいのぼり・七夕・盆踊り・子どもの健やかな成長を願い神社に詣でる(18…漢字で)など、現在に受けつがれている行事が全国に広まっています。さらに、『万葉集』や『古事記』などを研究して、儒教や仏教が伝わる前の日本人のものの考え方を明らかにしようとした(19…?学)もおこっています。これを大成した人物が伊勢国(三重県)の医者(20…人物名)です。これらは、江戸時代末期の思想に大きな影響をあたえます。



(1)年、儒学者の(21…人名)が6代徳川家宣と7代徳川家継に仕え、(22…?の治)という政治改革を行っています。この人物は生類憐みの令を廃止し、貨幣の質を良くして物価や幕府の財政の安定に努めましたが、効果がなかったようです。さらに、1715年には、(23…輸出品)の流出を防ぐため、長崎での貿易を制限しましたが、これも効果がなく失敗に終わっています。こうした17世紀から18世紀初めの第5代将軍の時代が(24…元号)時代です。

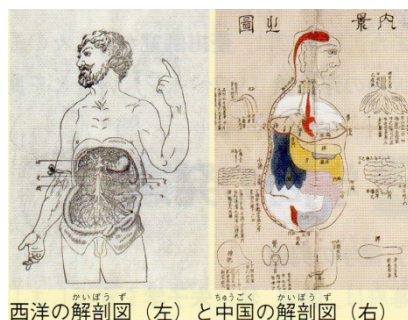


(2)年、もと(25…今の和歌山県)の藩主の第8代将軍徳川吉宗が(26…?の改革)を行い、財政の立て直しに取り組みました。吉宗は米の価格にとくに気を使いました。

吉宗が米の価格にそれほど気を使ったわけを答えなさい。…(記述 2)

また、農民の年貢を(27…?公?民)に引き上げて、年貢のとりたてを過去の取れ高によって決める**定免制**に変えます。幕府の財政は安定しますが、農民の負担は増えました。

さらに、吉宗は新田開発を積極的に行なって耕地を増やし、産業を発展させるためにキリスト教に関係のない漢文に訳された洋書の輸入を許可しています。すると、これがきっかけになり、ヨーロッパの学問を研究する(28…?学)がおこります。この基礎を築いた人物が(29…漢字で)です。



西洋の解剖図 (左) と中国の解剖図 (右)

さらに、(29)の弟子で、中津藩(大分県)の藩医の(30…人物名)と、小浜藩(福井県)の藩医の子の(31…人物名)ら7名の蘭学者が、オランダ語の解剖書の『(32…原書の名をカタカナで)』を翻訳し、『(33…書物名)』を出版しています。これが日本で初めての西洋医学の翻訳書です。



また、長崎では、オランダ商館の医師として来日した(34…ドイツ人)が(35…?塾)を開き、高野長英ら多くの門弟を育てています。しかし、この人物は、「大日本沿海輿地全図」を祖国に持ち帰ろうとして、幕府から国外追放の処分を受けています。



「大日本沿海輿地全図」とは、現在の千葉県佐原出身の(36…右の人物名)が、17年の歳月をかけてつくりあげた日本地図のことです。



1721年、吉宗が庶民の意見を聞くための投書箱の(37…漢字で?箱)を設置し、町方の消防組織の町火消しや、貧困者のための病院のこいしかわようじょうしよ小石川養生所がつくられています。



(3…年) 吉宗が大名に米を出させた(38)の代わりに、参勤交代のときの江戸での滞在期間を1年から半年にちぢめるという(38)の制(令)を出し、翌年には身分の低いものでも高い役職につくことができる**足高の制**を出しています。

(4…年) 吉宗が裁判の基準となる(39…漢字で?書)を出し、裁判の公正化を図りました。しかし、享保の大ききんがおきて失敗しています。

1772年、(40…人名を漢字で)が老中になり、商人の力を利用して財政を立て直そうとします。商工業者の同業者組合の(41…漢字で。座と同じような独占販売のしくみ)を幕府や藩が公認する代わりに、**莫加金**という多額の税を商人たちに納めさせたのです。



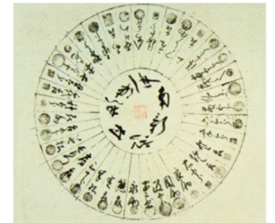
このことで産業は活発になりましたが、大商人が利益を独占するようになったために批判が出ます。

さらに、商人に資金を出させて千葉県いんばぬまの印旛沼やてがぬま手賀沼を干拓して新田を増やそうとしましたが、利根川とねがわのはんらんで失敗しています。さらに、(5)年には群馬県ぐんまの(42…火山名)が噴火したため、作物が取れず、百姓一揆いっぎと打ちこわしが多発しています。

1732年、徳川吉宗よしむねのときに享保きやうほうの大ききんがおこり、農民による反乱はんらんの(43…漢字で)と、町民による反乱はんらんの(44)が多発しています。1782年～1787年には、東北地方を中心とした(45…元号を漢字で)の大ききんがおこり、(43)と(44)がさらに増え、それが原因で老中の田沼意次たぬまおきつぐは失脚しています。

こうした百姓一揆いっぎと打ちこわしは、江戸時代に約(46…1200 2200 3200 4200から選ぶ)件もおこっています。右は、百姓一揆いっぎの参加者たちが円形に署名した(47)といひます。

なぜ、円形に署名がしてあるのかを2つの理由で説明しなさい。…(記述 3)



(6)年、11代将軍徳川家斉いえなりのもとで老中となった(48…人名)が(49…?の改革)に取り組みます。この人物は吉宗の孫で(50…今の福島県)藩の藩主でした。吉宗の享保の改革を手本にけんやくれい俵約令や、農村を立て直すために農民が都市に稼かせぎにくる出稼でかせぎを禁止し、ききんに備えて大名に米をたくわえさせた(51…漢字で?の制)などを出して政治改革かいかくに取り組みます。



(7)年には、旗本や御家人の借金を帳消しにする(52…?令。ひらがな可)を出します。こうした借金を帳消しにする令は、鎌倉時代の(53…?令)と室町時代の正長しょうちやうの土一揆どいっぎのときにも出されています。

しかし、いずれもかえって武士の生活は苦しくなる結果になっています。

翌年には(13…儒教の一派)以外の学問は認めないとした寛政異学の禁かんせいいがく きんを出します。しかし、反感を買って失敗し、松平定信まつだいらさだのぶはわずか7年ほどで老中を辞めさせられています。

また、松平定信が老中を退いたあとに家斉がはでな生活をしたため、財政がさらに悪化したようです。

#### 狂歌

○白河しらかわの 清きよきに魚うおの 住すみかねて もとの濁にごりの 田沼恋たぬまこいしき

この狂歌が言いたいことを説明しなさい。…(記述 4)

○世の中に 蚊かほどうるさきものはなし ぶんぶぶんぶ(文武)というて 夜もねられず

(9)年、大阪で(54…?の乱)がおきます。この人物は大阪町奉行所の元与力もとよりきという役人で陽明学者です。(55…元号)の大ききんで苦しんでいる人々を救おうと、自分が勤めていた幕府に対して反乱をおこしたのです。この乱は1日でしずめられましたが、大きな驚おどろきが全国に走ります。この反乱が幕府をおどろかせた理由を反乱のおこった地名を考えて答えなさい。…(記述 5)



また、この反乱が歴史上で意味しているものを考えて答えなさい。…(記述 6)

(10)年、老中(56…人名を漢字で)が(57…?の改革)にとりかかり、株仲間かぶなかまを解散させます。

しかし、経済は混乱してしまいます。1843年には米の収穫しゅうかくを回復させようとして、農民を国に帰すための(58…?令)や、旗本の領地りやうちを取り上げて替地かまちを命じた(59…?令)を出しますが、大名や旗本の反発は強く、すぐにこの令は撤回することになり、それが原因でこの人物は失脚し、改革も失敗しています。

